

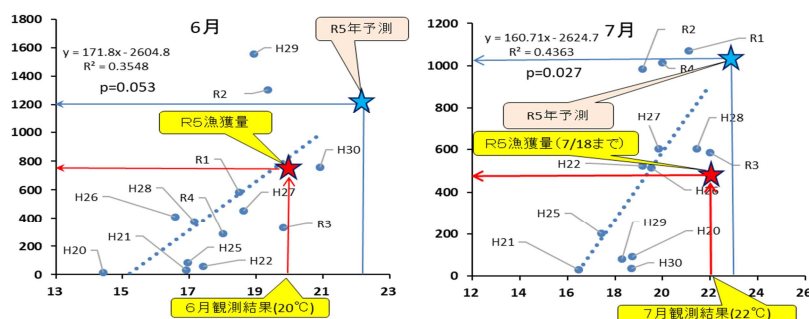
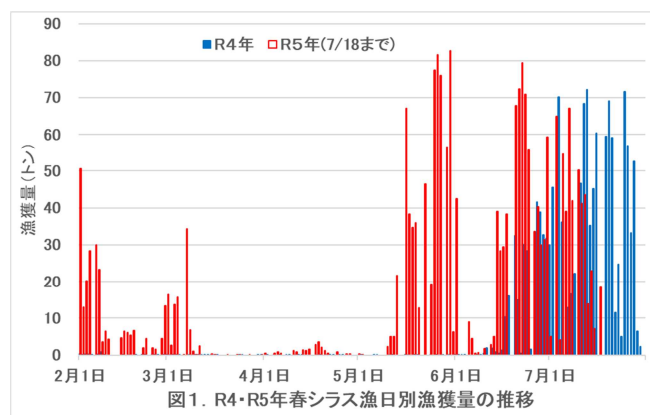
春シラスの漁況経過と秋シラスの見通し

(1) 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラスは、2月1日から3月上旬までの好漁ののち、一時低迷しましたが、5月連休明けから再び好転し、7月中旬まで良好な漁模様が継続しています。漁獲量は2,236トン(7/18速報値)となり、既に前年(1,137トン)、過去5年平均(1,931トン)の春シラス総漁獲量を上回り、予測どおり「好漁水準」となっています(図1)。

一方、水産の窓 5-No.5「春シラスの漁況経過と見通し」では6、7月の漁獲量を過大に予測していました。

これは、6、7月の10m深水温をFRA-ROMS IIの予測値を用いて6月22.2℃、7月23.1℃で算出しましたが、観測結果では6月が20℃、7月が22℃と予測値より低い水温になったことが一因と思慮されます(図2)。



(2) 秋シラス(8~12月)の見通し

本県の秋シラスの漁獲量は近年では8月が最も多く、9月以降は減少する傾向にあります。また、8~9月の漁獲量は、7月の沿岸10m深水温が高いほど減少する負の相関関係にあり、これを基に今年7月の海洋観測沿岸4点(シラス漁の主な漁場となる50m以浅)の10m深平均水温20.4℃から8~9月の漁獲量を予測すると732トンとなります(図3)。さらに、10~12月の漁獲量は、8~9月の漁獲量と正の相関関係にあり、これを基に予測すると224トンとなります(図4)。

また、海洋観測時に実施している東経141°以西の卵仔魚調査では、今年春期の6月までは例年より多い採集数で推移していましたが、7月に大幅に減少しており、8月後半からのシラス資源量の減少が懸念されます。

(3) まとめ

以上から、今年の秋シラス(8~12月)の漁獲量は約1,000トン程度の「不漁水準」(前年1,524トン、過去5年平均1,783トンを下回る)と予測されます。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

